

## 6. 学術情報センター

学術情報センター長 兼平 千裕（放射線医学）（平成19年4月より）  
同 図書館国領分館長 小澤 隆一（社会科学）（平成19年4月より）

### 1) 平成20年度統計（平成20年4月1日～平成21年3月31日）

#### (1) 図書館

① 蔵書冊数	247,447冊
② 現在受入雑誌数	1,053種（和744種、洋309種）
③ 電子ジャーナル提供数	約3,700種
④ 館外貸出冊数	12,420冊
⑤ 他学との文献相互貸借数	貸出 7,020件 借受 4,878件
⑥ 複写サービス	841,332枚
⑦ 情報検索サービス	70,086件（館内での記帳利用のみ）

#### (2) 国領分館

① 蔵書冊数	86,122冊
② 現在受入雑誌数	396種（和338種、洋58種）
③ 館外貸出冊数	7,523冊

#### (3) 標本館

① 標本数	マクロ標本	1,735点
	顕微鏡標本	2,549点
② 視聴覚資料	ビデオ・プログラム	1,738セット
	スライド・プログラム	601セット
	16mm フィルム	37セット
	コンピュータ・ソフトウェア	52セット
	語学プログラム	204セット
	その他	79セット

#### (4) 史料室

見学者数 587名（学内160名、学外427名）

#### (5) 写真室

① 撮影・スライド制作サービス	9件（333枚）
② X線写真複製サービス	278件（2,091枚）
③ ビデオ編集サービス	70件（262時間）
④ カラープリント出力サービス	79件（1,886枚）
⑤ 35mm スライド入力サービス	50件（4,997枚）

### 2) 主な事項

#### (1) 医学部学生演習

医学科1年生と2年生を対象にした基礎的な情報検索演習（医学総論）と、医学科3年生と4年生の「臨床疫学コース」の情報検索演習を担当したほか、看護学科1年生の図書館利用指導を担当した。

#### (2) ネットワークを介した情報提供

医学文献データベースであるMEDLINEと医学中央雑誌の新規データについて電子メールによる定期配信サービス（AutoAlertサービス）を行っているほか、新聞4誌から医療関係の記事の見出しを電子メールで配信するサービスも行っている。

#### (3) 蔵書点検

毎年夏に行っている図書館の蔵書点検で、本館・分館とも図書館システムの機能を活用し、例年よりも作業時間を短縮した。

- (4) 学術リポジトリの構築  
学内の学術成果物を電子的に蓄積し、インターネット上に公開する学術リポジトリを構築した。東京慈恵会医科大学雑誌、Jikeikai Medical Journal、教育・研究年報、Research Activities、高木兼寛の医学、高木兼寛の生涯、Life of Kanehiro Takaki を登録した。
- (5) 東京慈恵会医科大学『教育・研究年報2007（第27号）』および『Research Activities 2007』の編集担当  
標記各年報の原稿を大学ネットワーク経由で収集し、編集・出版の作業を担当した。
- (6) 医学論文書きかた講習会の開催  
Jikeikai Medical Journal 編集委員会と東京慈恵会医科大学雑誌編集委員会の共催で、5月9日および5月20日に岡崎真雄准教授（学術情報センター）による英語で論文執筆する際の注意点を、また5月26日に大井静雄教授（脳神経外科学講座）に「医学英語論文執筆のすすめとその書きかた」、6月3日に諏訪邦夫先生（元帝京大学麻酔科教授）に「論文を書くコツ：とにかく手をつけて、コンポーネントごとに仕上げる」と題して、それぞれ自身の経験に基づき講演いただいた。
- (7) 教材・研究資料の作製支援  
学内教職員、学生、同窓生を対象に、静止画及び動画の撮影サービスをはじめ、アナログ／デジタル写真の作製、各種加工、スライド作製、ビデオ編集サービスを行っている。また35mm スライドをデジタルデータ化するサービスも行っており、パワーポイントファイル作製支援をしている。
- (8) レントゲンフィルムの複製  
教育・研究の資料として、また他病院への診療情報提供、裁判所等への提出資料、病院保管に用いるレントゲンフィルムのコピーを行っている。
- (9) 広報活動支援業務  
広報活動支援業務として、学内行事の撮影、保管している画像データの提供を行っている。
- (10) 標本館総合展示の開催  
平成20年度は退任される安田 允教授（産婦人科学講座）に研究業績を下記の日程においてパネル展示を開催した。  
実施期間：平成20年11月10日（月）～11月14日（金）  
テーマ：卵巣癌の診断と治療－最近の動向
- (11) 情報技術支援業務  
学事課・システム課・教育センターの職員との協力により情報技術支援業務（テレビ会議等）を継続担当している。